

平成23年度学校評価表(中間評価)

学校番号	75
------	----

長野県梓川高等学校

評点 5: 十分 4: ほぼ十分 3: どちらともいえない 2: やや不十分 1: 不十分

* 「評価項目」の() 数字は、重点目標の項目番号

領域	対象	評価項目	評価の観点	中間評価(成果と課題)	評点	具体的な改善策・向上策
教育 活動	教育課程	(1) 教育課程研究とコース制の充実	生徒の要望や進路状況に応じた、カリキュラムの研究・検討を行い、特色ある教育課程づくりを行っているか。	選択科目群を決定し生徒への希望調査を実施した。開講講座の確定に向け現在調整中である。	3	生徒の希望が最大限実現するように調整を行う。
			学習指導要領改訂に伴う、新教育課程の作成について十分な検討を行っているか。	来年度、再来年度入学生の教育課程を決定した。コース制の充実のための微調整を検討している。	3	福祉コミュニケーションコースの充実に向け研究を続ける。
	学習指導	(1) 基礎基本の定着と個の興味関心に応じた指導	生徒の学力実態に対応し、指導の工夫や教材作成に取り組んでいるか。	担当者それぞれが実態を把握につとめ、個々の能力が発揮できるよう工夫している。しかし、多様な生徒の実態やニーズに応じ切れない部分もある。	3	授業マナーの改善を促しながら、一斉指導と個別指導を通じて、繰り返し基礎知識、基礎技術の定着に取り組む。
		授業評価による授業改善	授業アンケート、定期考査等を通じ、生徒の理解、関心の度合いを図りながら授業改善に努めているか。	定期考査等の結果を踏まえて、教科ごとに生徒の理解度・定着度を把握し、改善に努めている。	4	授業アンケートを実施し、生徒の授業に対する意識や関心の度合いを把握し、さらなる授業内容の充実を努める。
	進路指導	(2) 3年間を見通した計画的な進路指導	学年や個に応じた進路指導計画の策定とタイムリーな情報提供がなされているか。	学年会・係会の中で、進路に関わる情報提供をしている。個別には係の担当が面談等の中で、対応している。	3	学年会・係会等で、引き続き進路に関する情報交換を実施していく。個別面談の充実に向けて、情報の共有や一元化を進めていく。
		進路希望の実現と職業理解の促進	キャリアガイダンスや体験活動をとおして、職業理解の促進を図っているか。	進路体験報告会や学年ごとの進路ガイダンスを通して、意識向上を図っているが、体験活動の機会が少ないのが課題である。	3	総合学習やホームルームの時間を利用して、よりキャリア教育を推進するとともに、1・2年次より仕事まなび塾等の職業体験活動に参加させていく。
生徒指導	(3) 基本的な生活習慣の確立	全職員の協力で生徒指導に当たり、集団生活のマナーやルール遵守の定着を図っているか。	空き時間の校外見回り、放課後16時台の電車に合わせた駅・コンビニ周辺の見回りをおこなっている。	3	引き続き、問題行動を未然に防ぐよう、見回りを継続していきたい。	
		生徒相談体制の充実	生徒の状況を把握し、適切な支援を図るなど、特別支援教育の充実を図っているか。	職員研修会を2回行い、SSTについての理解を深めた。就職希望者へのSSTの導入。個別のケースへの対応。	3	第3回の研修会の計画・開催、月例カウンセリングの設定。引き続き状況に応じた相談を行っていきたい。
	クラブ会	(3) 自主的、主体的に行動する生徒の育成	生徒の自主活動に適切な助言と指導を行い、責任感・自治能力を育てているか。	日常の生徒会活動や最大行事である梓水祭の企画運営に関し、継続的に助言を行い、無事運営することができた。	4	大きな行事では、特に安全面に配慮し、怪我などを防げるような無理のない計画を立てて実行していく必要がある。
学校運営	組織運営	(1) 学校評価活動の充実	学校評価活動を通して、教育活動の向上・改善を図っているか。	各行事終了後、アンケートを実施し、改善に繋げている。学校評議員の提言を受け、改善に努めている。	4	教育懇談会での意見を参考に、さらに改善を図っていく。
		情報提供	本校の教育活動に関する情報や資料を、積極的に公開・提供をしているか。	学校便りを生徒・保護者向け以外に、地元中学校に3年生分を届け、情報提供をした。	4	マスメディアへの情報提供を、今後も継続していきたい。
	地域連携	(1) 地域の声や教育活動に生かす	中学校や上級学校との連携を図り、意見等を教育活動に取り入れているか。	地元中学校と放送部の連携を模索している。同窓会と職員で将来像を語る会を持つことができた。	3	中学生との交流や、大学との連携についてさらに深めたい。10年後の将来像を、今後校内で検討していく必要がある。
		教育力の活用	地域の教育力の活用を推進し、生徒の学習に生かしているか。	福祉コミュニケーションコースで手話や点字で講師を活用。1学年では、障害をもちつつ活躍したOBの話聞いた。	4	今後も人的資源を発掘し、教科、学年で活用を図りたい。
	校内研修	(1) 授業・学習指導法の改善	授業改善に結びつけるため、研修会及び公開授業・研究授業等がなされているか。	職員向けの公開授業を6/13～6/17に実施した。別の仕事を抱えているため職員が十分に参加できない現状がある。	3	今後も継続していきながら、授業の改善がなされるように、公開授業や研究授業の実施計画をたてていきたい。
		生徒の理解	多様な生徒の悩みを理解し、支援に結びつく研修となっているか。	専門家による発達障害に関する研修会を6/1, 9/21, 11/9(予定)に実施した。	3	発達障害に特化した研修になっているが、多様な生徒に対して幅広く対応していきたい。